

## ランキュラスの年内出荷作型に適した定植時期と冷蔵期間の検討

中村 広・郡司定雄・八反田憲生  
(宮崎県総合農業試験場)Hiroshi Nakamura, Sadao Gunji and Norio Hattanda :  
The planting time and cold storage period for forcing culture of *Ranunculus asiaticus*

Ohkawa<sup>1)</sup>によればランキュラスは質的低温要求性を持たず、吸水後の球根に低温を与えることで開花が促進するとされている。ランキュラスは主に花壇用や鉢物としての栽培が多いが、最近では切花用の品種の開発がなされ切り花生産も増加している。しかしながら、近年育成された切り花用品種の低温処理の効果については明らかにされておらず、これらの品種に適した冷蔵処理方法を明らかにすることが望まれている。そこで、ランキュラスの年内出荷に適した定植時期と冷蔵期間の検討を行った。

## 1. 材料および方法

供試品種に‘M ホワイト’(極早生)と‘ピレウス’(中生)を用いた。試験区は冷蔵期間を2週間、3週間、4週間の3水準とし、それぞれ2002年9月29日、10月19日、11月8日に定植する9区を設けた。

冷蔵処理の方法は5℃暗黒条件下で3日間吸水し、その後10℃暗黒下で3日間芽だししたものを5℃暗黒下でそれぞれの期間を冷蔵した。栽植様式は畝間105cm、条間30cm、株間20cmの2条植えとした。

施肥は本ほにN、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>、K<sub>2</sub>Oをa当たりそれぞれ1.5kgになるように施用し、栽培中は適宜、追肥を行った。試験は最低夜温を5℃に設定した農POフィルム被覆温室で1区6株、3ブロック制で行った。

## 2. 結果および考察

年内から収穫が可能だったのは、‘M ホワイト’では2, 3, 4週間冷蔵の9月29日定植と4週間冷蔵の10月19日定植で、‘ピレウス’は3, 4週間冷蔵の9月29日定植であった(第1表)。到花日数はどちらの品種も冷蔵週数が長いほど、定植日が早いほど短い傾向があった。冷蔵週数が長いほど到花日数が少なくなる傾向は‘ピレウス’の方が顕著であった(第1表)。

1番花の切花長、莖長は品種間では有意な差はみられなかったが、定植日が早いほど、冷蔵週数が長いほど短くなる傾向がみられ、特に‘M ホワイト’の4週間冷蔵・9月29日定植は貧弱な切り花となった(第1表)。

莖径は‘M ホワイト’よりも‘ピレウス’の方が太かった。定植日による差はなかったが、冷蔵週数が長いほど細くなる傾向がみられ、その傾向は‘ピレウス’の方が顕著であった(第1表)。

株当たりの切り花本数は定植日が早いほど多くなった。品種間では‘ピレウス’よりも‘M ホワイト’の方が多かった。冷蔵週数による明らかな傾向はみられなかった(第2表)。

切り花長別の割合は‘M ホワイト’では定植日が早く、冷蔵週数が長いほど切り花長の短いものの割合が多くなった。‘ピレウス’は冷蔵週数が長いほど切り花長の短いものの割合が多くなる傾向がみられたが、定植日

の違いによる傾向はみられなかった(第3表)。

以上のことから、ランキュラスの冷蔵促成栽培において年内から良品を出荷をするためには早生系品種で2~3週間冷蔵、中生系品種で3~4週間冷蔵したものを9月末に定植すれば良いと考えられた。

## 引用文献

1) OHKAWA, K., *Act. Hort.* 177, 165-172, 1986.

第1表 定植時期と冷蔵期間が1番花の生育・開花に及ぼす影響

品 種	定植日	冷蔵週	開花日	到花日数 (日)	切花重 (g)	切花長 (cm)	莖長 (cm)	莖径 (mm)	
M ホワイト	9/29	4 W	11/14	48	8.0	43.0±2.2*	40.6	2.3	
		3 W	11/27	59	9.5	48.1±2.3	45.8	3.1	
		2 W	12/11	74	16.2	49.9±1.9	47.5	3.9	
	10/19	4 W	12/26	69	10.0	48.0±0.5	45.4	3.1	
		3 W	1/10	83	14.4	52.2±1.3	49.3	3.6	
		2 W	1/28	102	16.0	51.3±2.0	48.6	3.9	
	11/ 8	4 W	2/ 1	85	11.9	50.3±2.6	47.7	3.4	
		3 W	2/ 8	92	14.1	52.1±0.9	49.6	3.4	
		2 W	2/11	95	11.5	53.6±1.2	50.8	3.7	
	ピレウス	9/29	4 W	11/22	54	11.1	45.4±1.4	44.1	3.7
			3 W	12/ 9	72	23.0	47.5±0.6	45.8	5.8
			2 W	1/10	104	29.4	47.5±1.0	46.1	6.7
10/19		4 W	1/12	86	12.8	46.6±4.3	48.7	3.9	
		3 W	1/20	94	19.0	45.0±1.2	49.7	4.9	
		2 W	2/ 9	113	26.5	57.7±2.0	52.4	5.9	
11/ 8		4 W	2/10	95	15.8	50.1±2.0	44.8	4.4	
		3 W	2/19	104	20.3	51.3±2.9	43.4	5.1	
		2 W	2/24	108	32.7	54.1±2.4	55.8	6.1	
品種 (A)				**	**	n. s.	n. s.	**	
定植日 (B)				**	n. s.	**	**	n. s.	
冷蔵週数 (C)				**	**	**	**	**	
A × B			n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.		
A × C			n. s.	n. s.	**	n. s.	n. s.		
B × C			**	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.		
A × B × C			n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.		

注) a) 平均±標準誤差 (n = 3)。  
\*\* は危険率1%で有意差あり。  
調査は3月31日で終了した

第2表 株当たり切り花本数 (本)

定植日	冷蔵週	M ホワイト	ピレウス
9/29	4 W	17.4±1.7	14.2±0.9
	3 W	16.7±2.9	15.6±1.4
	2 W	16.0±1.0	14.2±1.1
10/19	4 W	20.5±1.8	10.3±1.6
	3 W	15.0±1.6	10.3±1.2
	2 W	13.7±1.5	10.7±0.7
11/ 8	4 W	13.6±1.3	8.1±0.7
	3 W	14.2±0.1	8.4±0.6
	2 W	12.5±2.1	10.9±0.3

第3表 定植時期と冷蔵期間が切り花長別の割合に及ぼす影響 (%)

品 種	定植日	冷蔵週	40cm 未満	40cm以上 50cm未満	50cm以上 60cm未満	60cm以上 70cm未満	70cm以上 未満	
M ホワイト	9/29	4 W	5.7	28.7	50.3*	15.3	0	
		3 W	0.7	17.3	41.3	37.3	3.4	
		2 W	1.4	15.3	33.3	42.4	7.6	
	10/19	4 W	1.2	15.2	47.9	34.5	1.2	
		3 W	0	8.9	45.2	43.7	2.2	
		2 W	0.8	16.4	41.0	37.7	4.1	
	11/ 8	4 W	2.5	20.5	50.8	26.2	0	
		3 W	0	8.6	57.8	32.8	0.8	
		2 W	0	8.6	43.3	40.4	7.7	
	ピレウス	9/29	4 W	3.9	21.9	40.6	32.8	0.8
			3 W	2.9	15.2	43.5	36.2	2.2
			2 W	0.8	23.5	32.0	35.9	7.8
10/19		4 W	3.3	12.1	53.8	29.7	1.1	
		3 W	2.2	15.2	44.6	36.9	1.1	
		2 W	2.1	2.1	32.3	62.5	1	
11/ 8		4 W	2.8	9.7	58.3	29.2	0	
		3 W	1.3	7.9	53.9	36.9	0	
		2 W	1	13.3	67.3	18.4	0	

注) a) アンダーラインは最も多かった規格を表す。